

生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第三條 農地開發法第四十二條ノ規定ニ依リ法人税又

ハ營業税ノ免除ヲ受ケントストキハ法人税法第十八條又ハ營業税法第十五條ノ規定ニ依ル所得及資本又ハ純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十七年三月三十一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

財團法人人口問題研究會主催第六回人口問題全國協議會開催要綱の決定

財團法人人口問題研究會主催の第六回人口問題全國協議會は本年十一月十三、十四兩日に互り左の如き要領を以て開催せらるゝことに決定したが、民族人口問題の朝野に關心せらるゝ所いよゝ顯著なるに鑑みてその成果について期待せらるゝところ極めて多い。

第六回人口問題全國協議會開催要綱

一、趣旨 時局下大東亞共榮圈建設の現段階に當り其の根基たる民族人口に關する諸問題解決は愈々喫緊の要務たり茲に廣く衆智を聚め研鑽討議を竭し以て我が國人口國策に資せんとす

一、日時 昭和十七年十一月十三(金)、十四(土)の二日間

一、場所 東京市神田區一ツ橋一丁目一番地 一橋講堂及如水會館の豫定

一、日程 第一日(十三日) 自午前九時

(1) 總會

彙報

(2) 研究報告會

第二日(十四日) 自午前九時

(1) 研究報告會

(2) 總會

一、研究報告 左の如く五部門に分ち研究發表をなすと共に意見の交換をなすものとす

第一部門 人口民族問題に關する一般的研究

人口統計に關する一般的研究——人口思想及理論に關する一般的研究——人口政策に關する一般的研究——民族理論に關する一般的研究——民族政策に關する一般的研究——人口、特に我が國人口の歴史的竝に地理的研究——戰爭の人口現象に及ぼす影響に關する研究——世界各國に於ける戰時及戰後の人口對策に關する研究——其の他人人口民族に關する一般的研究等

第二部門 大東亞共榮圈人口民族に關する研究

諸外國竝に外地に於ける日本民族の人口狀態及其の活動に關する研究、特に大東亞共榮圈に於ける日本民族に關する研究——日本民族の發展策、特に大東亞共榮圈内に於ける移住適性に關する研究——日本民族の内外地間人口移動に關する研究——日本民族と大東亞共榮圈内の他民族との接觸に關する研究——大東亞共榮圈内諸民族及人種に關する研究——我が移植民政政策に關する研究——滿洲開拓移民に關する研究——列國の人口民族政策に關する研究——其の他大東亞共榮圈内人口民族及人種に關する研究等

第三部門 國土計畫に關する研究

世界各國の國土計畫に關する研究——都鄙の適

正なる人口配分に關する研究——産業再編成と勞力再配分に關する研究——人口再配分と農業再編成に關する研究——工業立地と人口再配分に關する研究——地域別國土計畫に關する研究——都市計畫地方計畫に關する研究——都市の疏閉に關する研究——居住形態及文化に關する研究——大東亞共榮圈内人口配置に關する研究——其の他國土計畫に關する研究等

第四部門 人口増加資質強化方策に關する研究

人口増殖政策に關する研究——婚姻獎勵對策に關する研究——出生増加方策に關する研究——人口政策と教育制度の關係に關する研究——人口政策と家族制度に關する研究——保健教育に關する研究——母性及乳幼児に關する研究——結核に關する研究——體力鍊成に關する研究——營養問題に關する研究——優生政策に關する研究——其の他人口増加竝に資質強化に關する研究等

第五部門 國民生活に關する研究

人口政策と生活の理念に關する研究——人口政策と精神生活に關する研究——戰時國民生活確保に關する研究——食糧の生産及配給に關する研究——生活必需物資の生産及配給に關する研究——人口政策と生活保護に關する研究——住宅に關する研究——衣服規正及衣料物資に關する研究——生計費に關する研究——生活指導及施設に關する研究——休養及餘暇利用に關する研究——其の他生活に關する研究等

一、協議

一、參加及研究報告申込 所定の參加申込書に依りし

月十日迄に申込むこと(電話に依る申込は謝絶す)

参加申込者には参加證を添附す

研究報告希望者は参加申込書所定の欄にその旨記載し報告要旨(一、〇〇〇字以内)を添付し十月十日迄に送附のこと

一、協議會費 参加者一人に付參圓とし申込と同時に振替(振替口座東京六九八六五番)又は小爲替を以て納入のこと

但し本會々員竝に本會に於て推薦したるものは會費は不要とす

一、その他 問合は厚生省人口局内人口問題研究会人口問題全國協議會係(電話九之内)〇二一〇——〇二一九番省內五三番)に照會のこと

熊本縣醫師會の縣下出生力調査結果の發表

熊本縣醫師會に於ては支那事變勃發當時より我が國人口問題のいよゝ緊急性を増大するに鑑み、熊本縣醫師會長谷口彌三郎博士の指導の下に同縣下に於てその専門的見地より各種の觀點に互り出生力調査を實施して來たが、最近その大要の結果を纏め、昭和十七年七月一日熊本市公會堂に於ける人口問題講演會に於て谷口博士より「人的資源基本調査上より見たる本縣の實情と人口問題」なる題下に發表さるゝに到つた。その講演速記を掲ぐれば以下の如くである。

人的資源基本調査上より見たる本縣の實情と人口問題

私は只今御紹介を受けました熊本縣醫師會の谷口で

あります。熊本縣の調査成績から見ました人口問題に就て、少しばかり申上げてみたいと存じます。

國力の強弱は、人口が多い少いと云ふ事、其の國民の素質の好し悪しと云ふ事に關係のある事は今更申上げる迄もないと存じます。凡そ我が大和民族が、實に優れた民族であると云ふ事は或は一人々々の特質に於ても、又全體の者が協力一致し得ると云ふ點から見ましても、實に優秀であると云ふ事は、之又申上げる迄もないことと存じます。然し如何に優秀な國民でありましても、其の數に於て少い場合には、充分なる國力を發揮する事は困難なのであります。今若し我が國の人口状態が徳川時代其の儘で進んで居つたとしますなら即ち其の時代には墮胎間引の風習が盛んでありました爲に享保六年に於て日本の人口は、二千六百萬餘と云はれて居つたものが、百三十一年後の嘉永五年に於ても、まだ二千七百萬餘であつたのであります。即ち百三十一年の間に於て、僅かに百萬そこゝの増加であつたのでありますから、假に明治維新後も其の趨勢を以て日本の人口が増加したとするならば、七十年後の今日に於て、僅かに三千萬餘になるかならない程度であつたらうかと思はれます。若し三千萬位の日本の人口であるとするならば、只今の如き大東亞戰爭がどうして出来ませう。大東亞戰爭はおるか、支那事變、滿洲事變も起り得なかつたらうと思ひます。即ち外國の壓迫によつて、益々退嬰して、我が民族は滅亡の運命に陥つて居つたかも知れない。然し、幸にして明治維新に依りまして、總ての制度が色々と革新せられて、殊に最も困つて居つた所謂 墮胎、或は間引と云ふ様な風習が斷然之に制裁が加へられたお蔭で、又經濟

界も非常に發展した爲、人口は非常な速力を以て増加致しまして、七十年後の今日に於ては、二倍以上の内地人口七千三百萬と云ふ増加振りであります。而かも國力はそれ以上に増加したお蔭で、今日の状態を見るに至つたと思ふのであります。然し日本の人口は明治維新以來、非常に増加を致して居りますが、先刻來度々お話がありました様に、大正九年に於ける出生率人口一千について、三十六・二と云ふのが最高であります。其の後は、だん／＼と出生率が下つて居るので御座いまして、既に昭和九年に於て、三十・零を下つたと云ふ様な状況であります。一面死亡は減つては居りますが出生もだん／＼減つて居ると云ふ状況で、人口問題から申しますと我が國の人口状態は可成り困る時期に近寄つて居るのであります。然も其の際に支那事變、大東亞戰爭が起つたのでありますからして、之は餘程容易ならぬ事であると存じます。

私共熊本縣醫師會の者は、支那事變が起りました當時、九州には二十二の市があつたので御座います。その二十二市に對しまして、誠に御迷惑と思ひましたが、前年度と當年度の、出生率、死産率或は五歳以下の子供さん方の死亡率を、毎月調査通報をお願いしたのであります。所が昭和十三年の七月迄は、そう大した影響は無かつたのであります。八月に至りますと、出生率は前年度の約八パーセントばかり減つて参つたのであります。九月になると二十四・八パーセント即ち約四分の一の減少を見たのであります。之は歐洲大戰の例に就て、先刻お話が御座いました様に、大きな戰爭のある場合には、出生率が減ると云ふ事は良く聞き知つて居る所で御座います。此の状態を見